

環境経営

サントリーグループにとって大切な経営資源である地球環境を次世代に引き継ぐために、グループ全体で環境経営を推進しています。

グループ全体で環境経営を推進

地球環境との共生が人類共通の最重要課題の1つであるという認識のもと、1991年に環境室と「環境委員会」を設置しました。2010年には、グループ全体で事業とエコロジーを一体として推進することを目的に、エコ戦略部を発足。「サントリーグループ環境基本方針」のもと、「環境負荷低減」と「自然環境の保全・再生」の両面から各グループ会社の環境経営の強化を図っています。さらに、今後は国内グループでの環境経営から、グローバルな環境経営体制の構築を目指して取り組んでいきます。

サントリーグループ環境基本方針 (1997年制定、2010年改定)

サントリーグループは、水と大地と太陽の恵みをお客様にお届けする企業として、環境経営を事業活動の基軸におき、生命の輝きに満ちた持続可能な社会を次の世代に引き渡すことを約束します。

1. 水のサステナビリティの実現

「水と生きる」をコーポレートメッセージに掲げる私たちは、全ての生命の源であり、事業基盤である「水」を大切に使い、きれいに浄化して自然環境に還し、使用した以上の水を育む森を守り続けます。

2. イノベティブな3Rの推進による資源の徹底的有効活用

循環型社会の実現に向けて、不断の技術革新により、事業活動のあらゆる側面で原材料・エネルギーなどの3R(Reduce, Reuse, Recycle)を一層推進し、持続可能なビジネスを構築します。

3. 全員参加による低炭素企業への挑戦

地球市民として、グローバルな視点で環境保全に取り組み、事業活動のバリューチェーン全体におけるCO₂削減を実行します。

4. 社会との対話と次世代教育

次世代に継承される豊かな自然を守るため、情報開示に努めるとともに、社会との対話を重ね、また、青少年への環境教育にも力を注ぎます。

5. Good Companyの追求

エコマインドを高く持つグループ社員づくりを通じて、人と自然と響きあいながら生物多様性の保全に努め、新たな価値を創造する“Growing for Good” Companyに向けて邁進します。

環境中期目標と進捗報告

環境経営を一層推進するため、2009年に水源涵養面積(水を育む森の広さ)とCO₂排出量削減の中期目標を下記の通り設定しました。

- 2011年末までにサントリー「天然水の森」(水源涵養林)を7,000haに拡大 [2008年末時点で約1,795ha]
- 2012年までに国内全事業活動におけるCO₂排出量を2007年比20%削減

水源涵養面積は目標とした7,000haを超え、2013年4月には7,600ha超に達しました。2012年のCO₂排出量は、バリューチェーン全体でのさまざまな取り組みに加え、購入したCO₂排出権によるオフセットも行いましたが、計画を大幅に上回る生産量の増加により、2007年比5%削減にとどまりました(CO₂排出原単位では2007年比19%の削減)。今後もグループ全体での活動を強化していきます。

商品のライフサイクル全体で環境負荷低減

サントリーグループでは、商品が企画・開発されて、廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体で環境影響を定量的に把握し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

また、海外における事業拡大にともない、グローバルでの環境負荷を捕捉するため、海外生産拠点の環境負荷の把握などを進めています。

環境マネジメント

● ISO14001認証取得をグループで推進

環境経営をグループ全体で強化していくために、グループ各社の環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001認証取得を積極的に推進。国内グループ会社※では統合認証取得を完了し、海外グループ会社※でも生産拠点を中心に認証取得が進んでいます。

サントリーグループの各社では、生産部門・研究開発部門・本社機能から営業部門までが一丸となって、原材料調達から廃棄までの全段階で環境視点を取り入れた事業活動を推進しています。

※日本版SOX法対象のグループ会社

●環境リスクを評価し対応策を策定

サントリーグループはISO14001の手順に沿って環境影響評価を各現場で行い、重点項目を特定し、発生するリスクについては未然に防ぐ対策を講じています。特に生産拠点では、周辺環境に対して細心の注意を払ったマニュアルを完備・運用することで、リスクマネジメントに努めています。

●環境会計を導入しコスト効果を算出

サントリーグループは事業活動における環境保全への取り組みを定期的に評価する重要なツールとして、環境省「環境会計ガイドライン2005年版」に準拠した環境会計を活用し、その内容を開示しています。(2012年実績/環境投資額18億円、費用額110億円)

環境コミュニケーション

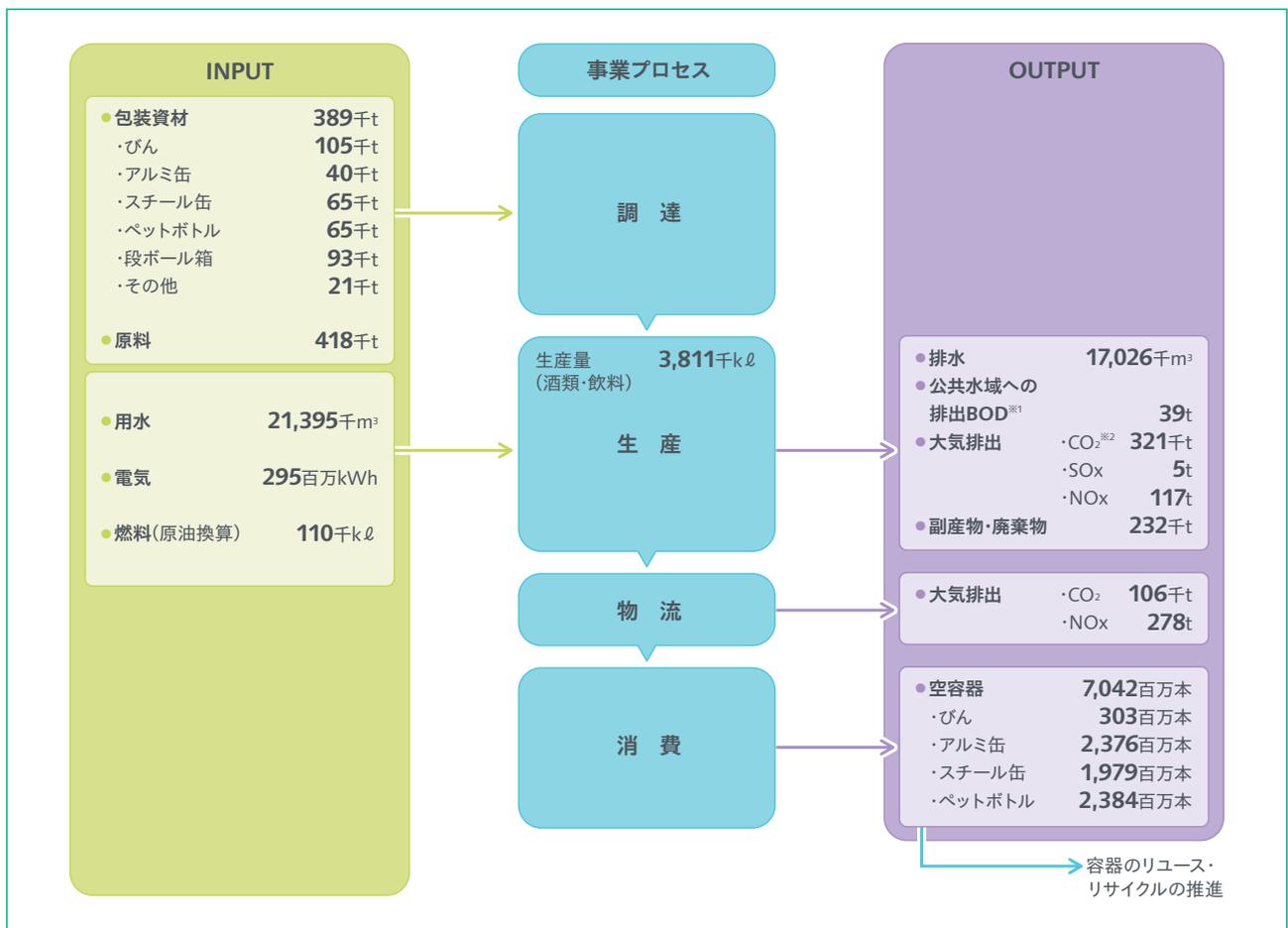
環境活動に関する情報を社会に発信し、ステークホルダーとのコミュニケーションを大切にしています。

Webサイト「環境活動」では、環境への取り組みについて、詳しい情報を紹介しています。また、定期的に情報を追加・更新することで、最新の情報を提供するように努めています。



Webサイト「環境活動」

●事業活動と環境負荷の全体像(対象期間2012年1月1日～12月31日、国内生産拠点(委託先を除く))



※1 BOD(Biochemical Oxygen Demand): 生物化学的酸素要求量。水の汚染度を表す指標の1つ
 ※2 電力由来のCO₂排出量は電力会社ごとの実排出量に基づく排出係数を使用